

# 持田遺跡発掘調査報告書

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州  
持田無線基地局建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

2006. 11

宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会

## 序

本書は、高鍋町教育委員会が平成17年度に株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州から委託を受けて実施した、同社の持田無線基地局建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果を収録したものです。

高鍋町は、国指定史跡「持田古墳群」をはじめ宮崎県指定史跡「高鍋町古墳」や高鍋町指定史跡「高鍋城跡」など、太古の昔より先人の生活を記す数多くの歴史遺産に恵まれております。

本調査地は付近に「持田古墳群」が所在しており、調査において多くの成果を得ることができました。

本書が、文化財の保護に対する認識と理解、さらには学術研究資料として役立つとともに、生涯学習や学校教育などの場において、郷土の歴史を学ぶ教材として広く活用いただければ幸いです。

この度の発掘調査におきましては、事業者である株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州をはじめ本事業者関係各位には格段のご配慮とご理解ご協力を賜りました。さらに、同地権者様、近隣在住のみなさまにご理解とご協力を賜りました。心より厚くお礼申し上げ、感謝の意を表する次第であります。

平成18年11月

高鍋町教育委員会

教育長 萱 嶋 稔

## 例　　言

1. 本書は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州持田無線基地局建設事業に伴う持田遺跡発掘調査についての報告書である。
2. 調査は、平成17年度に株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州からの委託を受けて、高鍋町教育委員会が実施した。その成果のまとめについては、平成17年度から18年度にかけて実施したものである。

### 3. 調査の組織

調査の主体 高鍋町教育委員会

教育長	三重野 保（平成18年3月31日まで）
萱嶋 稔（平成18年4月1日から）	萱嶋 稔（平成18年4月1日から）
社会教育課課長	壱岐 呂敏（平成18年3月31日まで）
	山本 泰英（平成18年4月1日から）
同 課長補佐	三鷗 俊宏（平成18年3月31日まで）
	青木 善明（平成18年4月1日から）
同 文化財係係長	山本 格（調査担当）
同 文化財係主査	小澤 宏之

調査指導 宮崎県教育庁文化財課

4. 発掘調査について川南町教育委員会 烏岡 武 氏からご教示を得た。
5. 遺物・図面の整理、図面の作成は、高鍋町教育委員会において、山本が行なった。
6. 本書に使用した写真は、山本が撮影した。空中写真については有スカイサーベイ九州に委託した。
7. 本書に使用した座標（緯度・経度）は、測地成果2000で、土地家屋調査士 徳田公生に委託した。
8. 本書に使用した方位は地形図では磁北で、その他の図面では平面直角座標系の北をさす。高さは、海拔絶対高である。
9. 本書の編集・執筆は、山本がおこなった。

# 目 次

## 本文目次

第1章 調査にいたる経緯	1
第2章 立地と環境	1
第3章 調査の結果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 調査の成果	5
第4章まとめ	11

挿図目次	2
------	---

第1図 調査地周辺遺跡分布図 (1 / 25,000)	2
-----------------------------	---

第2図 調査地位置及び付近遺跡分布図 (1 / 5,000)	3
--------------------------------	---

第3図 調査地位置図 (1 / 250)	4
----------------------	---

第4図 縄文時代早期面遺構分布図 (1 / 100)	6
----------------------------	---

第5図 鬼界アカホヤ火山灰層面遺構分布図 (1 / 100)	8
--------------------------------	---

第6図 捣立柱建物跡 平面・エレーベーション図 (1 / 50)	10
----------------------------------	----

図版目次	12
------	----

図版1 調査区遠景 (北東から)	12
------------------	----

図版2 縄文時代早期遺構検出状況	13
------------------	----

東北区の散疊群 (調査区東隅から)	13
-------------------	----

西北区の散疊群 (調査区西隅から)	13
-------------------	----

2号集石 (1号サブトレント)	13
-----------------	----

層序 (北壁面・1mピンボール)	13
------------------	----

図版3 1号集石 (南西から)	14
-----------------	----

1号集石 (南東から)	14
-------------	----

1号集石北側断面 (北西から)	14
-----------------	----

1号集石西側断面 (北東から)	14
-----------------	----

図版4 縄文土器1・2 (原寸)	15
------------------	----

縄文土器3・4 (原寸)	15
--------------	----

図版5 調査区全景 (鬼界アカホヤ火山灰層面での遺構検出状況)	16
---------------------------------	----

図版6 捣立柱建物跡全景	17
--------------	----

(左上W1柱穴 左中W2柱穴 左下W3柱穴	17
-----------------------	----

右上E1柱穴 右中E2柱穴 右下E3柱穴)	17
-----------------------	----

W1柱穴 (西から)	17
------------	----

E1柱穴 (東から)	17
------------	----

W2柱穴 (南西から)	17
-------------	----

E2柱穴 (北東から)	17
-------------	----

W3柱穴 (北東から)	17
-------------	----

E3柱穴 (北東から)	17
-------------	----

調査抄録	18
------	----

## 第1章 調査にいたる経緯

宮崎県兒湯郡高鍋町大字持山字計塚5446番1において、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州による第一種電気通信事業施設持田無線基地局の建設設計画があった。事業が予定されていたのは周知の埋蔵文化財包蔵地「持田遺跡」内であった。

平成17年4月に、事業者と高鍋町教育委員会との間で、施設建設予定地における埋蔵文化財の保存について協議を行った。高鍋町教育委員会は、工事予定地における埋蔵文化財の所在の状況とその性格を把握し、協議の資料を得るために、同年4月11日から5月9日まで確認調査を実施し、埋蔵文化財が所在することを確認した。この調査成果をもとに事業者と協議を行った結果、事業地変更は困難であることから、事業主からの埋蔵文化財発掘調査業務委託を受け当工事着手前に埋蔵文化財の本発掘調査を実施し記録保存の措置をとることになった。

## 第2章 立地と環境

高鍋町は、東に日向灘に面し、町の中心部がある海拔約10m未満の沖積平野を北方・西方・南方から海拔約50mから約70mの洪積台地に取り囲まれた地形をしている。この沖積平野を九州山地に発した小丸川が北西から南東に流れ日向灘にそいでいる。

当地は、小丸川の北岸の木城・川南台地といわれる標高約50~70mの洪積台地縁辺にあたり、台地辺に発生した谷地形から舌状地となるその根元部分にあたり、小丸川低地から日向灘までを一望できる場所である。

今回の調査対象地は、国指定史跡「持山古墳群」の東端に位置する第1号墳で同古墳群最大の前方後円墳である計塚の北西に約250mを隔てた位置である。当地はまた、持田遺跡の西端にも位置している。持田遺跡は、持田古墳群の主群の所在する台地面とその分布範囲と同じとする遺跡であり、弥生時代後期の住居跡が確認されている。

当地的北側に生ずる谷を隔て北西へ約400mには繩文時代から弥生時代の散布地である下り松遺跡がある。また、当地的東側の谷を隔て南東へ約1.5kmにある上ノ別府遺跡では古墳時代の住居跡が検出され持田古墳群との関連が指摘されている。

また、当地から北西へ約200mを隔てた場所には川南町の鬼ヶ久保遺跡があり弥生時代から古墳時代にかけての散布地である。さらに、この台地縁辺に沿いには遺跡が分布し、北西へ約2.5kmを隔てた場所には、国指定史跡の川南古墳群がある。

当地から南の小丸川低地の西にある、青木段丘や二財原・牛牧台地の縁辺にも遺跡が多く分布している。

### 【参考文献】

『高鍋町遺跡詳細分布調査報告書』 1989 高鍋町教育委員会

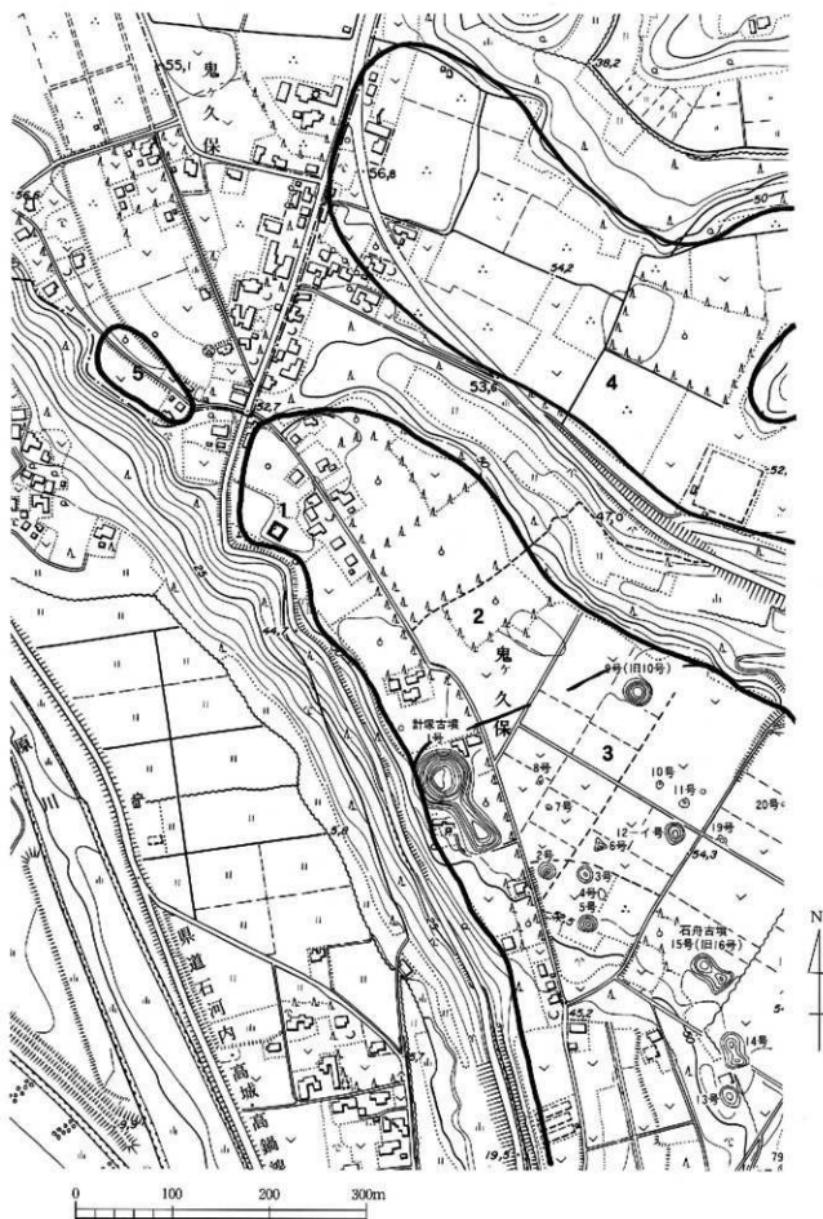
『川南町の埋蔵文化財～遺跡詳細分布調査報告書～』 1983 川南町教育委員会



本図は、国土地理院発行の2万5千分の一地形図を用いたものである。

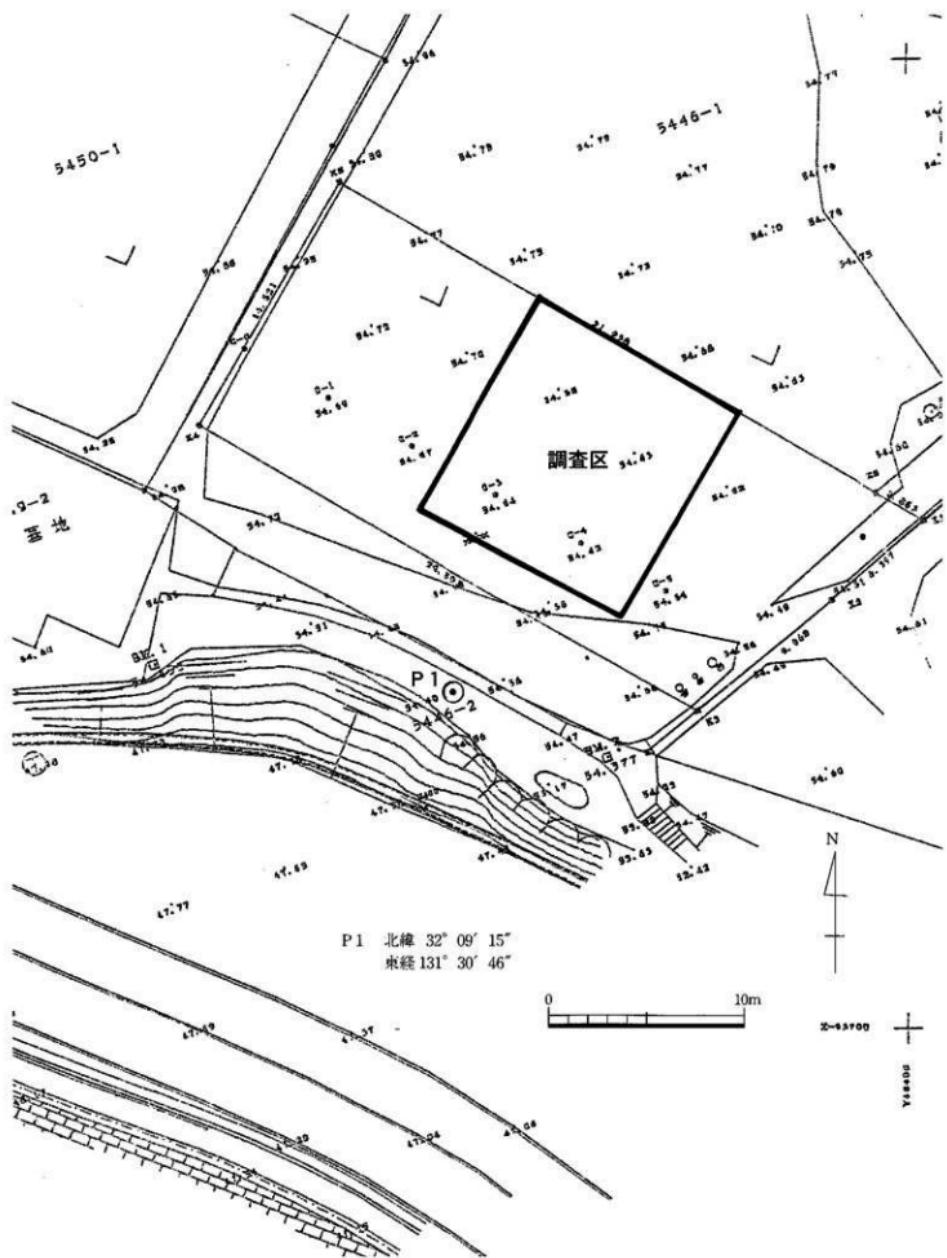
1 調査地・持田遺跡	2 持田古墳群	3 下り松遺跡	4 稲山遺跡	5 塚の木遺跡
6 上ノ別府遺跡	7 東光寺遺跡	8 依橋遺跡	9 鬼ヶ久保遺跡	10 羽司ヶ別府遺跡
11 尾花B遺跡	12 尾花A遺跡	13 天神前遺跡	14 川南古墳群	15 山王古墳
16 北中原遺跡	17 羽根田第1遺跡	18 羽根田第2遺跡	19 南中原遺跡	20 仙藏寺遺跡
21 大戸ノ口第1遺跡	22 大戸ノ口第2遺跡	23 大戸ノ口古墳	24 大戸ノ口第3遺跡	25 高鍋城跡
26 鮎口浦古墳				

第1図 調査地周辺遺跡分布図 (1/25,000)



1 調査地  
2 持田遺跡  
3 持田古墳群  
4 下り松遺跡  
5 鬼ヶ久保遺跡

第2図 調査位置及び付近遺跡分布図 (1/5,000)



第3図 調査地位置図 (1/250)

## 第3章 調査の結果

### 第1節 調査の概要

発掘調査は、持田無線基地局建設予定地について掘削を行う箇所に縦約12.4m×横約11.5mで調査区を設定した。先に実施した確認調査において、鬼界アカホヤ火山灰層（約6,500年前）の面とその下層の黒褐色土層で遺構・遺物を検出したため、本調査においては、この2面について発掘調査を実施した。

現地における調査は、平成17年6月27日から開始し、8月17日に終了した。鬼界アカホヤ火山灰層表面における発掘調査面積は、142.6m<sup>2</sup>で調査区面と同じである。その下層面での縄文時代早期については、鬼界アカホヤ火山灰層面で検出した掘立柱建物の区域と調査区の東隅から西隅にかけての1号溝の部分を除く、調査区の北東部から北西部と南部の一部（3号溝と4号溝の溝底部を除く）について発掘調査し、その面積は約67.2m<sup>2</sup>である。その区域内に、調査区の北壁全面直下に幅約70cm長さ約11.5m深さ約20cmの1号サブレンチと、それに直交して、調査区西壁から約3.2mを隔て、幅約40cm長さ約7.6m深さ約20cmの2号サブレンチを設定し下層の状況を確認した。

### 第2節 調査の成果

#### 1 層序

調査地における層序は、暗灰褐色土層（表土）、黒色土層、鬼界アカホヤ火山灰層（約6,500年前）、黒褐色土層、暗褐色土層、褐色土層であり当地付近においてみられる標準的なものであった。

#### 2 縄文時代早期の遺構（第4図・図版2）

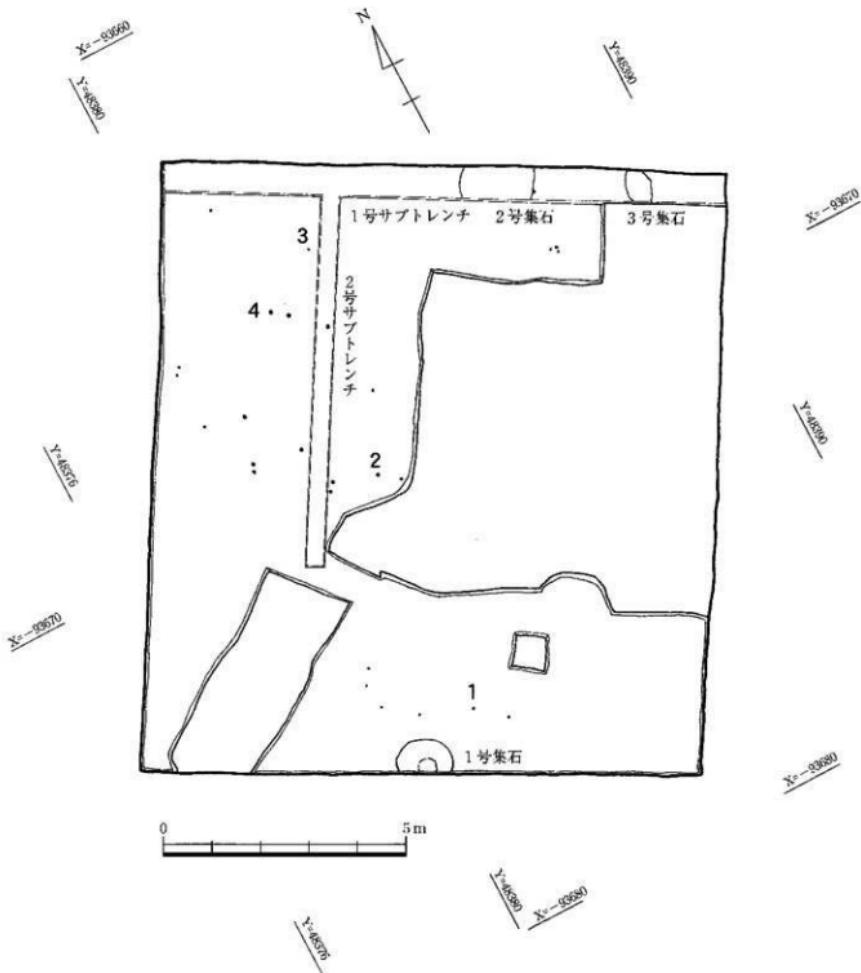
鬼界アカホヤ火山灰層の下位の縄文時代早期の面においては、集石遺構を3基検出した。また、この面では特に調査区の北東部から北西部にかけての区域で一面に散疊群がみられ、多くは赤変した焼石で割れていた。この散疊群は、鬼界アカホヤ火山灰層直下の黒褐色土層の底部までに分布し、その下層ではみられないことが確認できた。ただし、サブレンチの範囲での確認にとどまった。

##### 1号集石（図版3）

調査区の南辺のはば中央部において、集石の北半分を検出した。集石の直径は約1.2mで中央部の直径約40cmは検出面では疊がみられず、環状に集石された形態を示す。集石断面の中央部での掘込みは約30cmであり、底部では平面中央部の下には疊が組み込まれている。

##### 2号集石

調査区の北辺に設定した1号サブレンチにてその一部を検出した。集石は直径が約1.5m（推定）と考えられる。掘込みの有無は確認にいたらなかった。この東に約1.8mの位置に、3号集石を検出した。掘込みの有無は確認にいたらなかった。



●印は縄文土器片出土地点

第4図 縄文時代早期面遺構分布図（1／100）

### 3 縄文時代早期の遺物（図版4）

縄文時代早期の土器片が点在して出土（第4図）した。押型文土器で外面の文様は粗大捺円を示すもの（1、2）と、押型文土器で外面の文様は山形を示すもの（3）、押型文土器で外面の文様は凹線文を示すもの（4）などがある。

### 4 鬼界アカホヤ火山灰層面での検出遺構（第5図・図版5）

鬼界アカホヤ火山灰層面で検出した遺構は、縄文時代前期以降のものであり、掘立柱建物跡1棟、溝4条、土壙が検出された。

#### 掘立柱建物跡（第6図・図版6）

調査区の南東よりの箇所で柱穴6つを検出した。これらから、桁行き2間（約4.2m）、梁行き1間（約3.4m）の規模の掘立柱建物跡と考えられる。但し、東列の柱穴のさらに東方向へ梁行き1間以上隔てた区域は調査区の外であり調査にいたらず、梁行き1間以上になる可能性は否定できない。桁行きについては南北両方向について各柱穴間以上の範囲を調査し、関連する柱穴が検出されなかったので、桁行きは2間の規模である。

検出面からの柱穴の深さは約80~100cm程度である。各柱間の芯々間の距離は、桁行き東列において柱E-1と柱E-2間で2.1m、柱E-2と柱E-3間で2.1mである。桁行き西列において柱W-1と柱W-2間で2.1m、柱W-2と柱W-3間で2.1mである。梁行きは柱E-1と柱W-1間で3.4m、柱E-3と柱W-3間で3.4mである。

柱穴の掘り方は、柱E-1が1号溝、2号溝と切り合い、柱E-2は3号溝と切り合い、柱E-3は土壙と切り合い、柱W-1は3号溝と切り合い、柱W-2は柱穴間にある溝と切り合い、柱W-3は1号溝との切り合いがみられる。そのために、柱穴の掘り方の規模は、推定で直径約0.9~1.3m程度といえる。掘り方底面の形状から柱材は直径約30cm程度の丸材と思われる。

柱穴からの遺物がみられなかったために、この遺構の時期を特定するにはいたらない。

#### 1号溝

調査区の東隅付近から中央部を経て西隅付近にいたる。溝の幅は約60cm、深さ約30cm~50cmで断面はV字型である。調査区の西隅付近では、その形状が不明瞭となる。土壙との切り合いがみられ、縄文土器片や須恵器片などの遺物が混在していた。攪乱を受けている可能性も考えられる。この1号溝は、2号溝、3号溝、4号溝に切られている。1号溝がこれらよりも古いといえる。この遺構の時期を特定するにはいたらない。

#### 2号溝

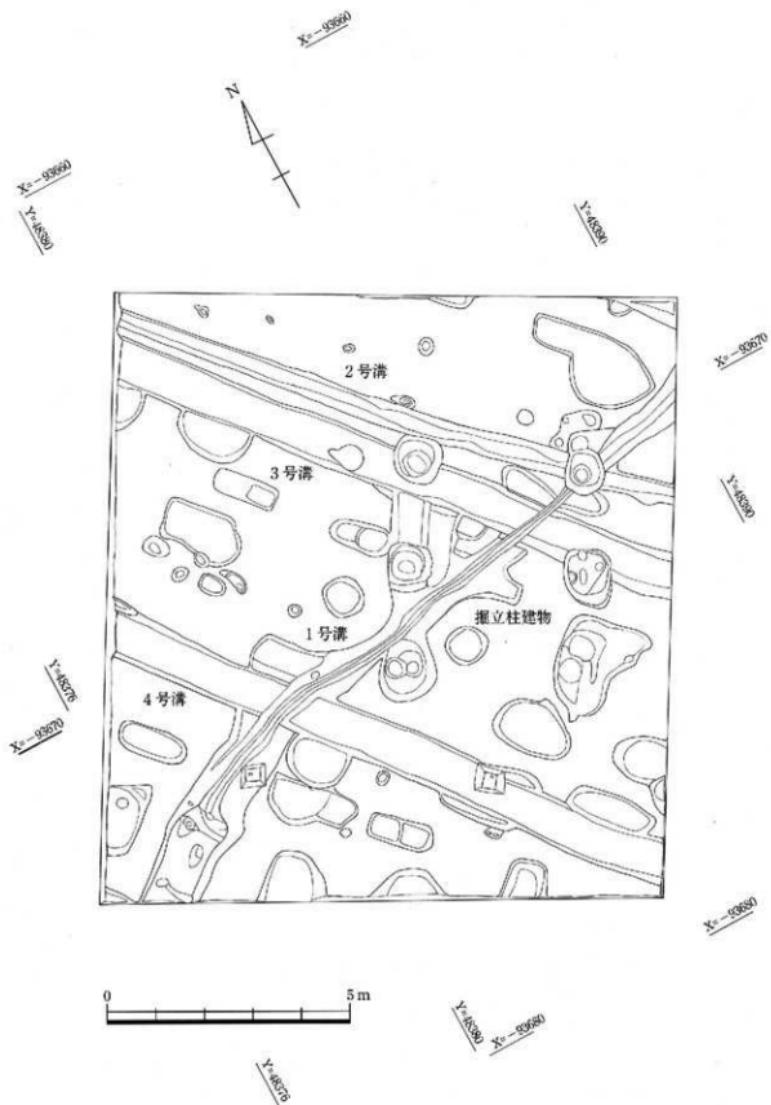
調査区の北隅付近から南東にいたる溝である。溝の幅は約50cm、深さ約20cmで断面はU字型である。1号溝を切るために、これよりは新しい。掘立柱建物跡の柱E-1も切るために、この2号溝が新しい。この遺構の時期を特定するにはいたらない。

#### 3号溝

2号溝の南西側に並行する溝である。溝の幅は約90cm、深さ約50cmで断面は長方形である。1号溝、掘立柱建物跡の柱W-1、柱E-2をそれぞれ切る。これらより新しい溝である。この遺構の時期を特定するにはいたらない。

#### 4号溝

3号溝の南西側に約4.5m離れてほぼ並行し、調査区西壁中央付近から南隅にいたる溝である。

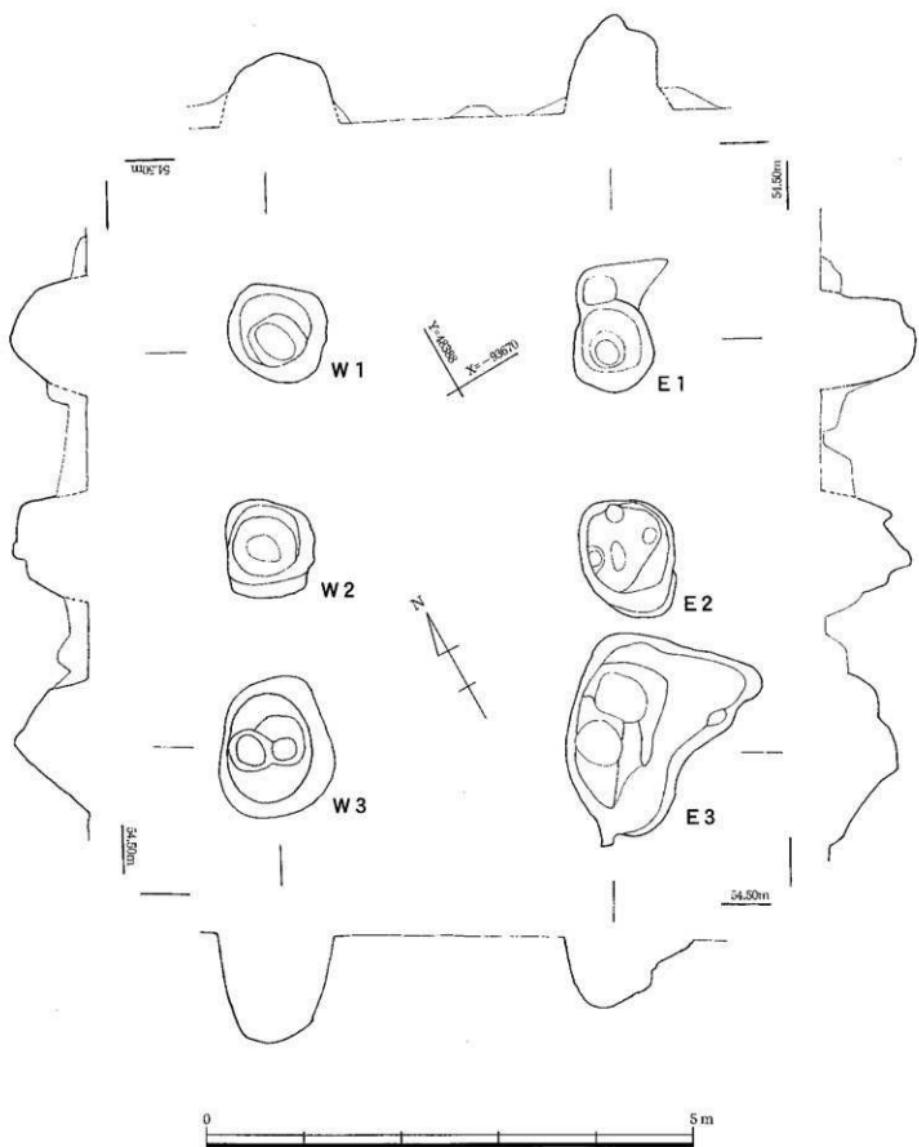


第5図 鬼界アカホヤ火山灰層面遺構分布図 (1/100)

溝の幅は約90cm、深さ約50cmで断面は長方形である。1号溝を切り、これより新しい溝である。その規模と形状から、3号溝と時期が近いものとみられる。この造構の時期を特定するにはいたらない。

#### 土壤

調査区内において、円形、楕円形、隅丸長方形、不定形などの土壤を検出した。土器を伴う土壤もみられたが、攪乱によるものである可能性がある。3号溝や4号溝に切られている土壤があるのでこれらは、3号溝や4号溝より古い土壤といえる。これらの造構の時期を特定するにはいたらない。



第6図 掘立柱建物跡 平面・エレベーション図 (1/50)

## 第4章 まとめ

今回の調査では、鬼界アカホヤ火山灰層（約6,500年前）直下の縄文時代早期の遺構・遺物について、およびその上面での縄文時代以降の大きく2以上の時代にわたる遺跡としての性格が明らかになった。調査区域は広い面積ではなかったが、複数の生活面の確認ができた。

縄文時代早期の遺構面においては、調査区全面についての調査でなく区域を限るものであったが、散疊群の密度の高さ、数の多さに対して、当時の人々が溝理した痕跡である集石遺構が3基であった。これは、調査区域の関係であり、また散疊群の精査までいたらず、調査区域を限定せざるを得なかつたことによるものと考える。まだ多くの集石遺構が検出された可能性が大きい。

縄文時代早期の散疊群としては、小丸川対岸の三財原・牛牧台地の縁辺に位置する大戸ノ口第2遺跡において検出されており、当地においても同様に高位置にある遺跡での検出となった。この散疊群は、集石遺構の廃棄されたものと考えられる。当地付近においては、長期間にまた大規模に生活拠点がおかれたことが考えられる。

1号集石については、その形状から、掘りこみつきの集石遺構か、あるいは、連結上層の集石での再利用したものであるかのいづれかの可能性が考えられる。このタイプの集石遺構は、南九州をはじめこの地域において、縄文時代早期から前期にかけてみられるものである。

鬼界アカホヤ火山灰層の面において検出された遺構については、掘立柱建物跡が特筆できる。この遺構の柱穴に関連する遺物がみられなかったために、時期を特定するにいたることが困難である。ただ、この掘立柱建物跡の柱穴W-3・柱穴E-1と切り合う1号溝との関係について、より精査を進めることで掘立柱建物跡のおおよその時期を考察する材料が得られると考える。1号溝そのもののからか、切り合い関係の土壌に關係するものは明らかではないが、この箇所からの須恵器などの遺物の性格を把握していくことで、各々の検出遺構の時期や前後関係が判明できるものと考える。

鬼界アカホヤ火山灰層の面では、まず、1号溝が掘られ、あるいは、掘立柱建物が建てられる時期があり、次に2号溝が掘られて、さらに、一部の土壌が掘られる。その後に、3号溝や4号溝が掘られたとの想定ができる。

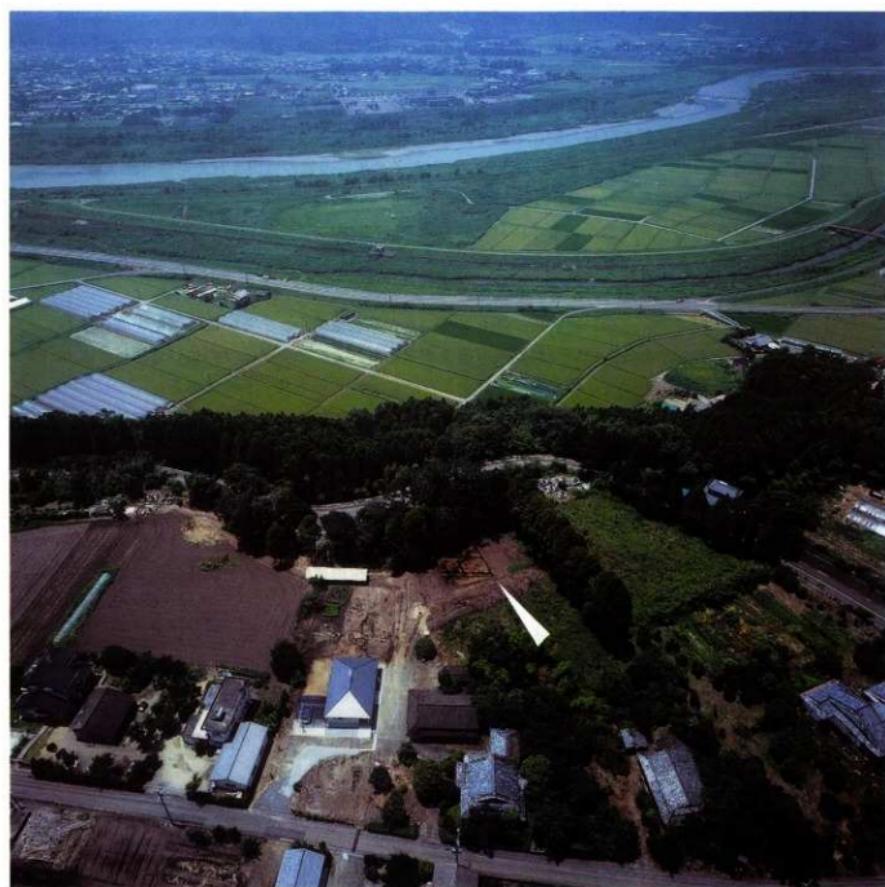
これらの、各遺構の性格については、不明な点が多い。特に、掘立柱建物跡については、その用途がどのようなものであったのかということも判明すべき課題である。このプランと共に通する要素をもつ掘立柱建物についても検索していく必要がある。

今回の発掘調査により、この地点には、少なくとも、現在から約6,500年以前の縄文時代早期の人類の生活した痕跡にはじまり、その後にも数回以上にわたり今日にいたるまで、数多くの人類がこの地にとどまり、またこの地を利用していたことがわかる。

この付近において、将来にわたり、発掘調査の機会を数多く捉え、資料の収集が一層図られていくことに期待したい。

### 【参考文献】

「高鍋町文化財調査報告書第5集 大戸ノ口第2遺跡」 1991 高鍋町教育委員会



調査区遠景（北東から）



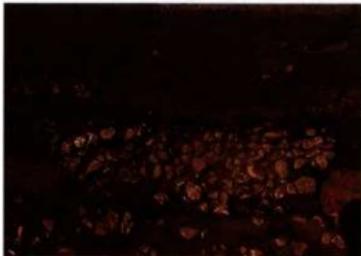
縄文時代早期遺構検出状況



東北区の散礫群（調査区東隅から）



西北区の散礫群（調査区西隅から）

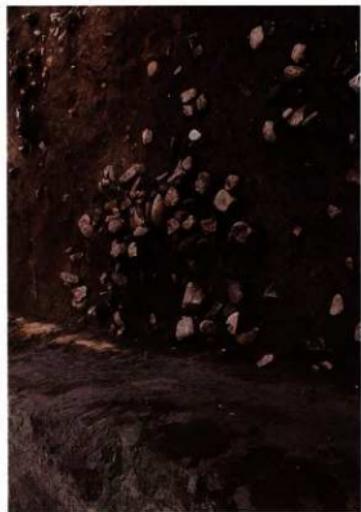


2号集石（1号サブトレーナ）

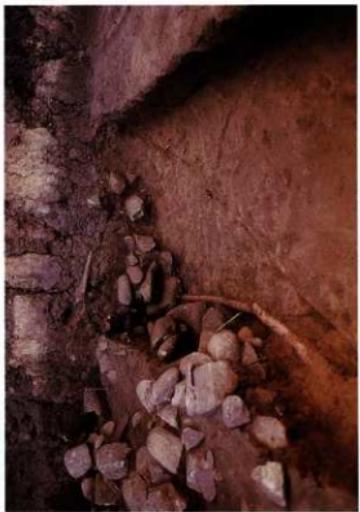


層序（北壁面・1mピンポール）

図版 3



1号集石 (南東から)



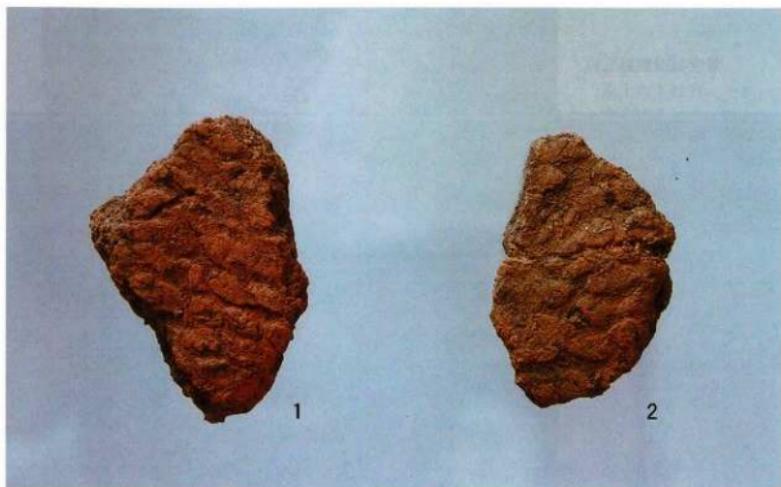
1号集石 西側断面 (北東から)



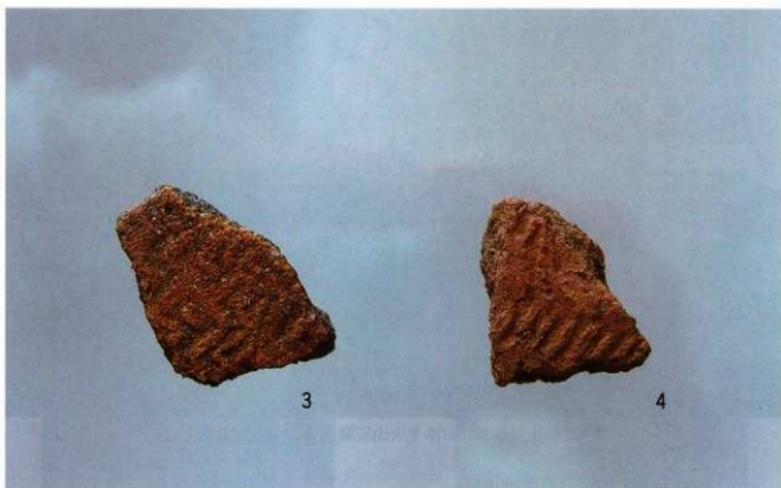
1号集石 (南西から)



1号集石 北側断面 (西北から)



縄文土器（原寸）



縄文土器（原寸）



調査区全景（鬼界アカホヤ火山灰層面での遺構検出状況）



掘立柱建物跡全景  
左上 W 1 柱穴  
左中 W 2 柱穴  
左下 W 3 柱穴  
右上 E 1 柱穴  
右中 E 2 柱穴  
右下 E 3 柱穴



W 1 柱穴（西から）



E 1 柱穴（東から）



W 2 柱穴（南西から）



E 2 柱穴（北東から）



W 3 柱穴（北東から）



E 3 柱穴（北東から）

## 調査抄録

ふりがな	もちだいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	持田遺跡発掘調査報告書							
副書名	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州 持田無線基地局建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査							
卷次								
シリーズ名	高鍋町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第12集							
編著者名	山本 格							
発行機関	高鍋町教育委員会							
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8335番地							
発行年月日	2006年11月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市	遺跡 番号					
もちだいせき 持田遺跡	たかねちやまとせきあぐらち 高鍋町大字持田 あぐらちやまと 字計塚	45401	1010	32° 09' 15"	131° 30' 47"	20050627 20050817	142.6	第1種 電気通信 事業施設 持出無線 基地局 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
もちだいせき 持田遺跡	包蔵地	縄文～近世	集石 掘立柱建物跡	縄文土器				

高鍋町埋蔵文化財調査報告書 第12集  
**持田遺跡発掘調査報告書**

2006年11月

編集・発行 宮崎県児湯郡高鍋町教育委員会  
印 刷 倉印刷センタークロダ  
宮崎市大橋2丁目175番地  
〒880-0022 電話24-4351番

